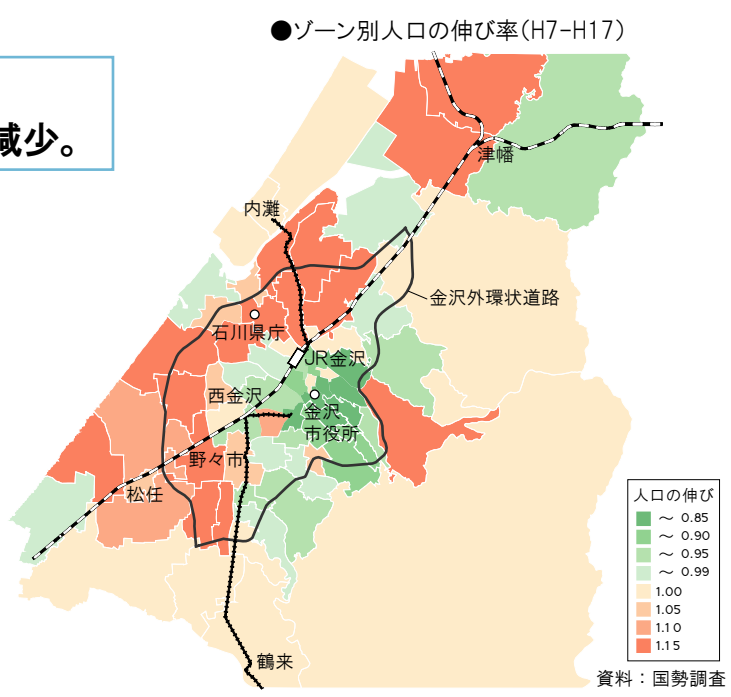
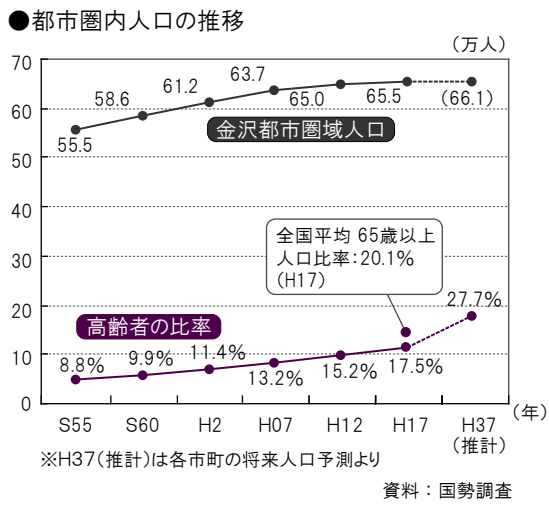


# 金沢都市圏の人の動き

## ● 金沢都市圏の人口推移

**都市圏人口は横ばい。  
郊外部で人口増加、金沢市中心部で減少。**

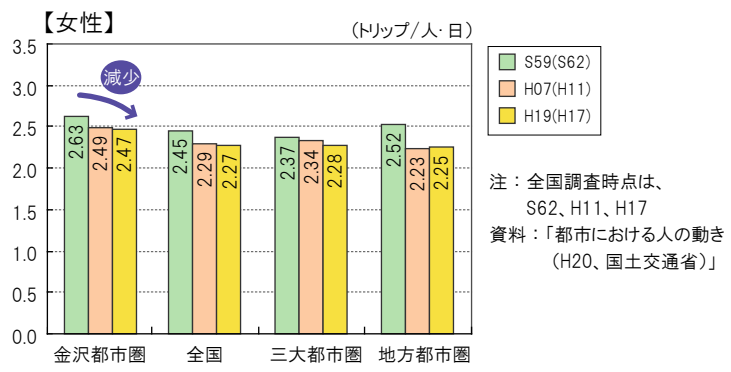
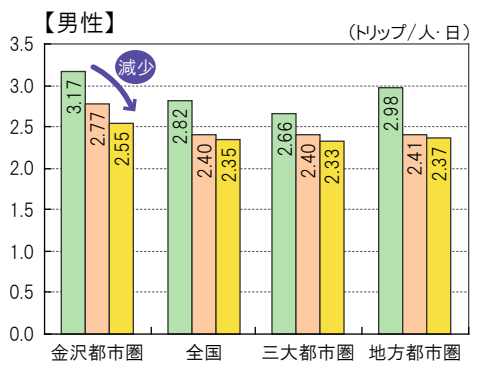


- ・ 65歳以上人口の比率はH17年で17.5%であり、各市町ともに急速な高齢化が進展し、H37年には27.7%と推計されています。
- ・ 市街地の拡大に伴い、H7年以降、JR線から海側、太陽が丘、田上地区などで人口の増加が著しくなっています。

## ● 一日の人の動き

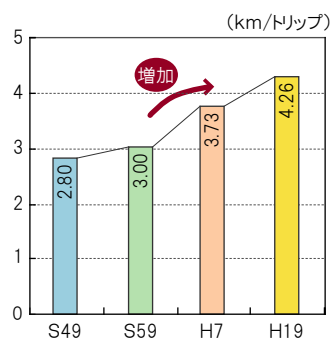
**1日の人の動きは2.5回で減少傾向。移動距離は4.3kmと増加傾向。**

### ● 男女別一人当たりのトリップ数/全国・他都市圏との比較



- ・ 男性の一人当たりのトリップ数は、2.55トリップ / 人・日と、S59年時点から低下しています。
- ・ 女性の一人当たりのトリップ数は、2.47トリップ / 人・日と減少していますが、H7年以降は横ばいとなっています。

### ● 金沢都市圏の平均トリップ長の推移



・ 平均トリップ長は、S49年以降増加を続けており、H19年には約1.5倍の伸びとなっています。

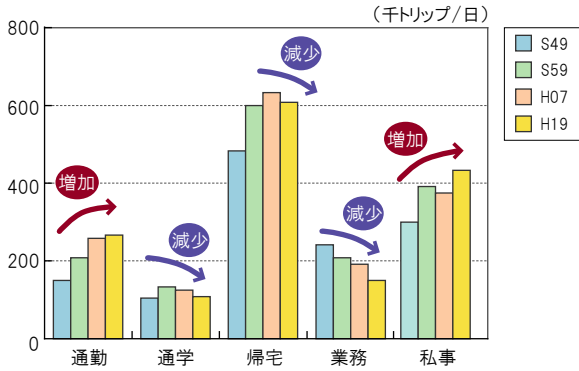
**「トリップ」とは・・・**

- ・ 「トリップ」とは、「ある人」が「ある目的」を持って「ある地点」から「ある地点」へと移動することです。いくつかの交通手段に乗り換えても1トリップとしてとらえます。
- ・ 「トリップ数」とは、移動回数です。

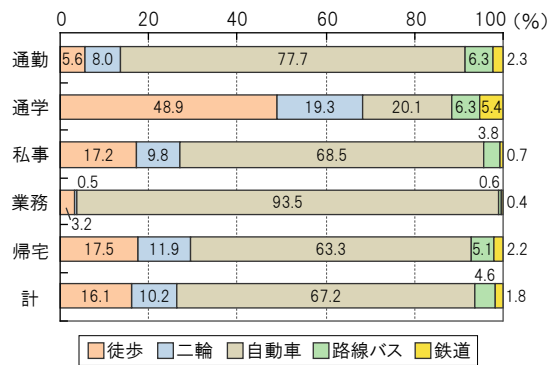
● 移動目的からみる人の動き

通勤や私事での移動が増加。通学や業務等での移動が減少。

● 交通目的別トリップ数の推移



● 目的別代表手段利用率(H19)



・ 目的別の移動について、S49年と比較し、通勤で7割、私事で2割増加、通学で1割、業務で2割減少となっています。

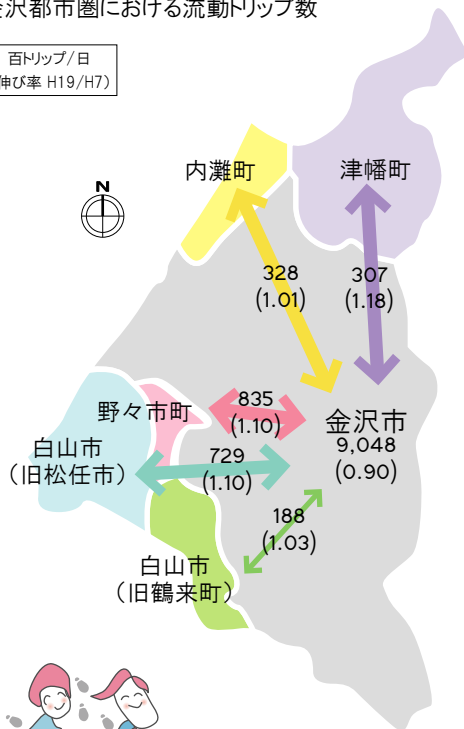
・ 通勤、業務では自動車利用が70%以上あります。  
・ 通学は徒歩と二輪で約70%となっています。

● 都市構造の変化に伴う交通流動の変化

市街地の拡大に伴い、金沢市と周辺市町間の動きが1割近く増加。金沢市内の動きが、1割近く減少。

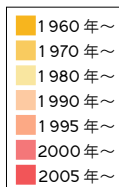
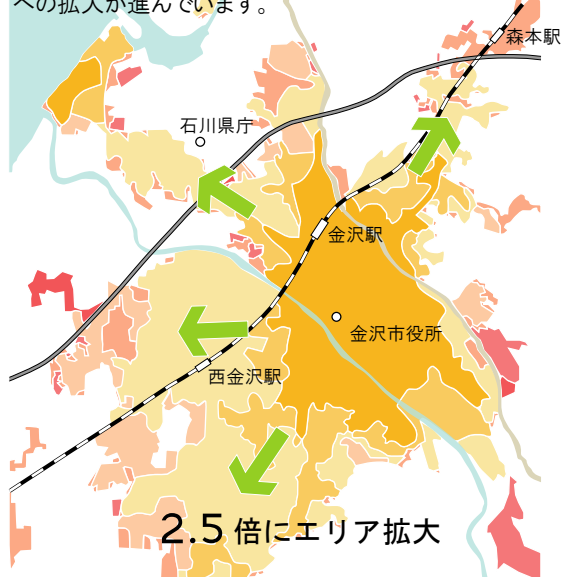
● 金沢都市圏における流動トリップ数

百トリップ/日  
(伸び率 H19/H7)



● 人口集中地区 (DID) の変遷

・ 金沢都市圏では、1960年から約45年間でDID地区が約2.5倍に拡大しています。  
・ 最近の約10年は、駅西・金石など海側、角間地区などへの拡大が進んでいます。



「人口集中地区(DID)」とは

「人口集中地区(Densely Inhabited Districtの略)」とは、人口密度約4,000人/km<sup>2</sup>以上の国勢調査地区がいくつか隣接して、合わせて人口5,000人以上を有する地区を表します。